

平成30年度事業報告

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

全体概要

I 概要

新しい時代、「令和」を迎えるに当たり、平成時代としては最後の通年決算となる30年度は、本財団にとっても一つの区切り、転換点となる年度となった。

平成31年1月、京都経済界の新たな拠点である「京都経済センター」が竣工。本財団も1月末に入居を行った。経済団体や国、府、市等の産業支援機関など約50団体が集積し、多様な知恵、情報、技術がクロスする連携拠点となるものである。本財団としても、より一層各種組織団体等と交流を深め、新たな創造を目指して業務を開始した。

また、京都におけるMICEの旗艦である国立京都国際会館に、平成30年9月、待望久しい「ニューホール」が完成。隣接するイベントホール等との一体的利用など、多様なニーズへの対応が可能となり、本財団としても大型国際会議等の誘致に大きく弾みがついたところである。

加えて、平成30年に京都で開催された国際会議件数は、これまでにない5年連続で過去最高を更新するとともに、国際機関（ICCA）の統計においても、国内2位を堅持し、世界順位も50位から41位にまで上昇した。

そして、平成30年11月には、令和7年の大阪・関西万博の開催が決定した。過去、昭和45年大阪万博の年に入浴者数が3千万人を突破し、平成2年大阪花博の年に4千万人を突破した歴史から、令和7年の大阪・関西万博の年に入浴者数が増えることは想像に難くない。

しかし、一方で現在、地域の生活環境が悪化するオーバーツーリズムが大きな課題となっており、加えて昨年は、6月の「大阪北部地震」、続く「7月豪雨」や「猛暑」、そして未曾有の強風被害となった9月の「台風21号」など、大規模な自然災害が続発した年でもあった。

引き続き、こうした課題に対応した、バランスある持続可能な観光振興に努めていかなければいけない。

また、「源氏物語千年紀」を契機として平成21年に発足した古典の日推進委員会は、平成24年に「古典の日に関する法律」制定、平成27年には「琳派400年記念祭」の開催など、古典普及啓発活動に多くの成果を上げてきたが、平成30年度はこれまで積み上げてきた文化庁との連携により一層注力し、更に高めることができた。

平成30年度はこのように、新しい時代の到来を前にして、多くの事業目的を結実、充実させていくとともに、新規事業にも積極的にチャレンジを行い、文化と観光の両分野でしっかりと業務推進を果たしてきたといえる。

以下が平成30年度の重点施策別の取組状況の結果である。

Ⅱ 5つの重点施策別の取組状況

1 文化・観光クロスオーバーの推進

文化・観光クロスオーバー事業のシンボル企画となる「文遊回廊」事業を継続して実施した。

本事業は京都新聞社との共催事業として、古典を中心に、京都ゆかりの文学作品や文人、作家等をテーマとし、作品に登場する舞台や、文人等にちなむ地を広く紹介し、それらを巡ることのできるルートを策定していくものであり、毎月第4木曜日、京都新聞紙上に連載を行った。

平成30年11月には同じく読者交流フォーラムの中で、文遊回廊シンポジウムを開催し、毎月執筆いただいている国際日本文化研究センター荒木浩教授他にご講演をいただいた。

また、平成31年3月には第1回文遊回廊ウォーキングツアーをJRグループとの「京の冬の旅」事業の一環としても開催し、遠くは青森県から参加をいただくなど好評を博した。

そして、こうした企画に加え、MICE事業におけるユニークベニユーの取組や、「お茶の京都」との連携、京都迎賓館一般公開事業を通じた伝統工芸の普及など、文化と観光の両面から、積極的に事業展開を行った。

特にユニークベニユーに関しては、文化庁地域文化創生本部が、全国の自治体関係者等を対象に出版した「文化財を活用したユニークビュー・ハンドブック」の中で、本財団の取組が先進事例として紹介されたところである。

2 観光・MICE戦略の推進

平成30年に京都で開催された国際会議件数は5年連続で過去最高を更新し、京都府全体で367件を記録した。京都市域でも過去最高の349件となり、海外参加者数も初めて3万人を突破し、加えてオフシーズンに開催補助金を手厚く配分したこともあり開催時期の平準化も進んだ。また府域においては、これまで南部地域での開催が中心であったが、今回、北部地域での開催が増加した。

そして、令和元年及び2年に予定されている3つの大型国際会議の京都側推進組織の事務局を本財団が受任し、円滑な開催に向け準備を進めた。

「国際博物館会議（ICOM）」では、1年前イベント「夏の京都のミュージアム」等の開催を支援し、「国連犯罪防止・刑事司法会議（コングレス）」においては、京都実行委員会の委員長に村田純一理事長に就任いただき、参議院法務委員会の京都視察等に対応を行った。「国連世界観光機関（UNWTO）とユネスコによる観光と文化をテーマにした国際会議」においても、会期等の調整のためにUNWTO本部に職員を出張させるなど準備を進めた。

また、京都市とともに「MICE向け京都伝統産業製品貸出制度」や「京都エクスカッションガイド」を創設した。伝統産業製品貸出制度において、会場装飾用に京扇子を貸し出すなど、広く伝統産品をMICEで活用することにより、購入促進やリユースによるSDGsの推進等を図ったところである。

加えて、二条城で開催された「ミシュランガイド京都・大阪+鳥取2019」の出版記念パーティや、京都で初めて開催された「インターナショナルギフト・ショー」など、「C」以外の「M」、「I」、「E」にも積極的に業務支援を行うなど、着実に成果を上げてきた。

3 国際観光と広域観光の連携推進

本財団のインバウンド業務を移管した京都市観光協会と、引き続き業務連携を行い、世界11都市に及ぶ海外情報拠点による市場説明会への参加など、本財団の会員にはこれまでと同様のMICE部門とインバウンド事業双方のサービスを提供し、きめ細かく情報提供に努めた。

一方、広域プロモーション事業として、京都府と山城地域全市町村等により設立された「お茶の京都DMO」と連携し、宇治茶のプレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んだ。

平成30年11月には、パリにおいて宇治茶プレミアムウィーク企画展や、とらやパリ店で玉露の淹れ方講座等を実施し、後日、パリ在住の宇治茶愛好会メンバーを京都府内の宇治茶の産地に招待するなど、宇治茶のプレミアムブランド化、そして世界遺産の登録へ向け、理解を深めることができた。

4 京都迎賓館への支援

平安建都1200年記念事業として、国が整備し、運営している京都迎賓館について、オール京都で海外からの賓客に対する地元接遇などの支援を行った。

平成30年度には新たに京都迎賓館と共催で「文化サロン」を2回実施した。第1回は日本庭園をテーマに、佐野藤右衛門氏による講演と実際に庭園の中をガイド付きで散策いただき、第2回目は瓢亭のご主人高橋英一氏の講演と、瓢亭の仕出し弁当を味わっていただいた。

また、京都迎賓館についての理解を深めるシンポジウムを、西日本で初めて福岡で開催し、西日本新聞社の全面的な協力を得たことも有り、会場内も大変熱気に包まれ、好評であった。

そして、一般公開の通年化に合わせて開始した迎賓館記念グッズの販売についても、迎賓館ゆかりの文様等を使った京扇子やご朱印帳バンドなどを新たに商品化し、販売に努めた。

5 古典の日の全国展開

平成29年4月に文化庁地域文化創生本部が設立され、文化庁の本格移転に向けた取組が進められている中、古典の日推進委員会として、これまでの「古典の日普及事業」の実績を踏まえ、「古典の日」の全国展開について、同創生本部と密接に協議を進めてきた。

結果、令和4年度以降、文化庁が全国各地で開催する「国民文化祭」の主要な柱として、「古典の日」関連事業が実施される運びとなった。

こうした取組により、「古典の日」が京都においてはもとより、多彩な固有の文化と古典を有する全国各地、各地方に大きく発展、展開していくことを文化庁とともに目指していくこととなった。

また、平成30年度は「街かど古典カフェ」を明治150年記念として、春は芳賀徹先生に、そして秋は所功先生に講師としてご登壇いただき、大変好評を博したところである。

そして、日本各地の古典を愛好する団体、個人との間の活発な文化交流、情報交換の契機を提供し、古典活動全国展開への一助とする「古典の広場アカデミア」の設立に向けて、準備を進めた。

加えて、本委員会と日本の古典文学研究の代表的な機関の一つである「実践女子大学・実践女子大学短期大学部」と協力協定を結ぶべく、協議を深めた。

部 門 別 概 要

I 文化交流発信事業（公益目的事業）

1 古典の日推進事業

（1）「古典の日」普及・定着のための事業

「古典の日」の法律の趣旨達成のために、「古典の日」である11月1日に「古典の日フォーラム」を、また明治150年を記念して明治の文学作品を取り上げた「古典の日朗読コンテスト」を開催した。また、今年度は、パリの街かどのカフェのように、講師を囲み、親しく議論を深める「古典の日」ファン待望の「街かど古典カフェ」を5年ぶりに再開した。

① 「古典の日フォーラム2018」の開催

ア 開催日：平成30年11月1日（木）（古典の日）

イ 会 場：京都劇場

ウ 参加者：910名

エ 概 要

・古典の日宣言

小林千恵（NHK京都放送局アナウンサー）

・和歌披講 兼題「紅葉」

京都府立鳥羽高等学校 披講研究部

指導・解説：冷泉貴実子

（公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事）

・リレートーク「文遊回廊 ～古典をいただき 古典に抱かれて～」

宮田亮平（文化庁長官）、西脇隆俊（京都府知事）、門川大作（京都市長）、

山本正（宇治市長）、冷泉貴実子（古典の日推進よびかけ人）

コーディネーター：荒木浩（国際日本文化研究センター教授）

・講演「恋とあはれみ ―古典に見る日本人の心」

池澤夏樹（作家・詩人）

・対談「今、『源氏物語』を訳して」

角田光代（小説家）

インタビュアー：三宅民夫（元NHKアナウンサー）



②「第10回古典の日朗読コンテスト」

第10回を迎えた朗読コンテスト、今年は明治150年を記念して明治文学4作品を課題とした。全国から513名の方々に応募いただき、第1次、第2次審査を経て、中学・高校生部門から7名、一般部門から8名が最終審査会に出場した。また、世界の詩文朗読枠で昨年同様、伍芳さんにご出演いただいた。コンテスト後の緊張感ある会場が、伍芳さんの中国古箏の演奏と朗読で、和やかな雰囲気包まれた。(11月11日(日)京都市立京都学・歴彩館で開催)

また、本コンテストの【中学・高校生部門】大賞及び京都市高等学校文化連盟会長賞受賞者が、12月16日(日)全国高校生伝統文化フェスティバルで朗読を披露した。



左から「一般部門」大賞受賞者、最終審査会に残られた15名の皆さん、「中学・高校生部門」大賞受賞者

③「街かど古典カフェ」春・秋季講座

一流の講師を囲み、趣のある空間で、古典をより深く、より掘り下げて学ぶ贅沢な講座を春季・秋季の2回開催した。

<春季講座>は、古典の日推進よびかけ人である芳賀徹先生(東京大学名誉教授)に、「近代日本古典にたどる幕末維新」をテーマに、歴史上の証言であると同時にすぐれた文学古典でもある幾つかの文章によって18世紀後半から19世紀末にかけての日本人の対西洋の精神史を5回シリーズで講義いただいた。当初、定員を30名としていたが、応募者数が上回り、定員を80名まで増やし、会場を下鴨神社公文所に移した。



<秋季講座>は、政治の中心が江戸であった徳川時代に京都が果たしてきた役割と明治天皇が東京に移られてからも御大礼が京都で行われた歴史的な経緯と将来のあり方を所功先生(京都産業大学名誉教授)に講義いただき、最終回は、細見美術館及び京都市美術館別館で開催された「京都の御大礼」展の現地講座で、吉野健一先生(京都府立丹後郷土資料館学芸員)の解説を受けながら、展示品を観覧した。

(2) 情報発信・広報活動等

・「古典の日」ホームページ

全国に向けた「古典の日」の発信と、「イベントカレンダー」に於いて、催し物等に関する情報の提供を行った。また、古典の日に関連する事業を実施する全国の自治体、図書館、文化会館等の団体、個人の情報ターミナルとなる「古典の広場」への会員登録のよびかけと、今後会員向けの特典となる「古典の広場アカデミア」の開校に向け、京都在住の古典に係る講師陣に講師就任のよびかけを行った。

〈古典の広場〉 会員登録件数 : 71件

〈イベントカレンダー〉登録件数 : 95件

・「古典の日絵巻」第7巻「きものがたり」

毎年テーマを変え、古典に親しんでいただける寄稿文で楽しんでいるコーナー。今年度は、服飾評論家の市田ひろみ先生に、四季おりおりの和の文化「きものがたり」についてご寄稿いただいた。

内容は、第1号「サミットの思い出」、第2号「きものいろいろ」、第3号「鐘の音」、第4号「京の月」、第5号「衿あわせ」、第6号「光悦村」、第7号「家族」、第8号「話芸」、第9号「巨木の生命」、第10号「けじめの贈り物」、第11号「赤土の村」、第12号「砂漠に土石流」でした。市田先生の声が聞こえてくるかのような文面で楽しんでいた。

(3) 共催事業

- ・古典の普及に貢献している他団体との共催事業として、有斐斎弘道館との共催で「源氏物語をテーマとする京菓子公募」を実施した。多くの方が古典に親しむ機会が増えることを目的に、今後もこうした取組を積極的に進めていく。

(4) 共催、後援、ロゴ・シンボルマークの使用許可申請数（平成31年3月31日現在）

- ・共催 : 4件
- ・後援 : 36件
- ・ロゴ・シンボルマーク : 19件

(5) 「古典の日」普及・推進活動及び広報活動等

ア ホームページ

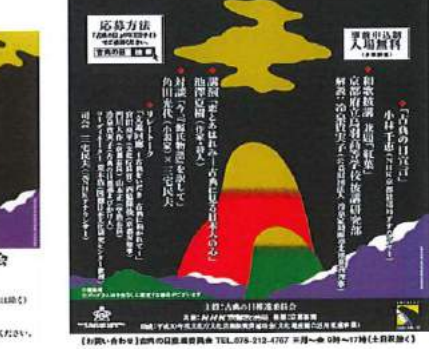
- ・アクセス数 93,950件（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

イ 関係機関広報ツール

- ・府民だより
- ・京都市民しんぶん
- ・宇治市政だより
- ・文化庁関西元気文化圏ホームページ（文化カプロジェクト）
- ・beyond 2020

ウ 掲載一覧

- ① 京ごよみ 10月号 (8月25日)
- ② 読売新聞 大阪本社版 夕刊 (8月25日)
- ③ 京都新聞 夕刊 (8月27日)
- ④ 朝日新聞 大阪本社版 朝刊 TV 表札 (9月14日)
- ⑤ 読売新聞 「Epice(エピス)」 (10月24日)
- ⑥ 大垣書店 栞 (10月29日)
- ⑦ 京都新聞 朝刊 (11月1日)
- ⑧ 京都銀行 サイネージ
- ⑨ 京都劇場 掲出用 B1 ポスター



2 京都迎賓館支援事業

(1) 京都迎賓館でもてなした外国賓客 (計 8件)

① オーストラリア連邦下院議長一行	4月18日～19日
② ブラジル連邦共和国上院議長一行	4月19日～20日
③ オーストリア共和国連邦参議院議長一行	5月17日～18日
④ フランス共和国国民議会議長一行	6月 2日～ 4日
⑤ タジキスタン共和国大統領一行 ※	10月 3日～ 4日
⑥ ブルキナファソ共和国大統領一行	11月21日～22日
⑦ モロッコ王国女王一行 (京都市単独)	11月27日
⑧ インド共和国上院副議長一行	3月16日～17日

※：地元・京都が主催した接遇

<これまでの接遇件数>

年 度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
接遇件数	8	11	15	9	10	10	12	5	7	9	13	11	8

(2) もてなし・しつらいプロデュース事業

京都迎賓館における賓客接遇等の際、しつらいの一つとして活用するいけばな文化の継承・発展のため、いけばな協会への支援を行った。

また、迎賓館の賓客接遇に際して、京都府京都文化博物館、京都市美術館、京都府立堂本印象美術館等のご協力により、地元美術工芸品の借用を行った。

(3) 京都迎賓館一般公開への支援事業

ア 期 間：一般公開：平成30年4月1日(日)～平成31年3月31日(日)

※ 接遇に支障のない範囲で通年公開

イ 支援事業

(ア) 京都迎賓館一般公開にかかる PR チラシ(A4)、ポスター(B1、B2)を制作し、観光案内所や交通機関にて掲示及び配布した。

ポスター：1,180部、チラシ：19,500部(内英語版2,000部)

(イ) 京都観光・文化情報コーナーを設置し、府、市、商工会議所等の資料を配布した。

(4) 京都伝統技能・文化発信事業

「京都迎賓館シンポジウム」の開催

ア 開催日：平成30年9月1日(土)

イ 会 場：福岡・都久志会館(福岡市中央区天神 4-8-10)

ウ 参加者：500名

エ 概 要

◇文化披露

芸舞妓による舞踊披露(京都・宮川町)

◇基調講演

テーマ「京都迎賓館～和のおもてなしとは～」

講 師 安藤 昌弘氏(元 内閣府迎賓館館長)



◇パネルディスカッション

テーマ 「京都にいきるおもてなしの技とこころ 世界へ」

コーディネーター 木下 博夫氏 (前 国立京都国際会館館長)

パネリスト 安藤 昌弘氏 (元 内閣府迎賓館館長)

井上 八千代氏 (京舞井上流五世家元)

高橋 拓児氏 (京料理「木乃婦」三代目主人)

(5) 特別企画「京都迎賓館文化サロン」の共催

京都迎賓館を会場に、日本の歴史・文化に関するテーマ毎に京都迎賓館にゆかりのある講師による講演及びプレミアムなガイドツアーを体験できる特別企画を京都迎賓館と共催で行った。

第1回 「日本庭園」

ア 開催日：平成30年12月4日(火)

イ 参加者：100名

◇京都迎賓館作庭者 佐野藤右衛門氏による講演

◇庭園のガイドツアー(一般公開としては初)

◇通常一般公開されていない部屋の公開



第2回 「京料理」

ア 開催日：平成31年3月12日(火)

イ 参加者：50名

◇瓢亭14代目当主 高橋英一氏による講演

◇藤の間で食事(一般公開としては初)



3 京都創生フォーラム事業

(1) 運営委員会・連絡会の開催

① 運営委員会

日時：平成30年4月27日(金) 午後2時～3時30分

場所：京都商工会議所 第2会議室

議事：平成29年度の活動について(報告)

平成30年度の活動について(提案)

各運営団体の京都創生に関する取組について(情報交換)

② 連絡会

日時：平成30年7月20日(金) 午後1時30分～2時30分

場所：京都文化交流コンベンションビューロー 会議室

議事：7月27日シンポジウムの運営について

(2) 京都創生推進フォーラム「シンポジウム」の開催

日 時：平成30年7月27日（金）午後1時30分～4時

会 場：ロームシアター京都 サウスホール

参加者：450人

内 容：

- ・オープニング「長唄三味線組曲」

杵屋 勝七郎 氏

杵屋 寿哉 氏

- ・総会挨拶

立石 義雄（フォーラム代表・京都商工会議所会頭）

門川 大作（京都市長）

- ・パネルディスカッション

「京都のまちとアートの未来」

コーディネーター

宗田 好史氏（京都府立大学副学長）

パネリスト

建畠 哲氏（美術評論家・詩人）

並木 誠士氏（京都工芸繊維大学大学院教授・同美術工芸資料館館長）

長谷川 祐子氏（東京藝術大学大学院教授・東京都現代美術館参事）

やなぎ みわ氏（美術作家・舞台演出家）



(3) 京都創生PRの実施

① 京都創生PRポスター「日本に、京都があってよかった。」

発行時期：第31弾 平成30年11月30日発行

：第32弾 平成31年 3月19日発行

仕 様：B1判・B2判・B3判・B3ワイド判（地下鉄用）

発行部数：第31弾4,450部、第32弾5,000部

配 布 先：全ての市バス・地下鉄の車両、地下鉄全駅、市内私鉄駅、市内金融機関、市内郵便局、市関連施設、市内ホテル、市内大学構内、首都圏旅行代理店、京都に修学旅行を予定する全国小中高校、「京あるき in 東京」参画企業店舗など



第31弾（世界文化自由都市宣言40周年）



第32弾（千年を超える皇位継承の舞台 皇室ゆかりの地・京都）

② 広報誌「京都創生」第19号・第20号

発行時期：第19号：平成30年12月27日

第20号：平成31年 3月28日

仕様：ともに、A4版4頁

発行部数：ともに、7,000部

配布先：京都創生推進フォーラム会員・京都府及び京都市関係機関・運営団体等

(4) 「京都ブランドフォーラム in 東京」の開催

（ 主催 京都ブランド推進連絡協議会
（府・市・京都商工会議所）
共催 公益社団法人京都市観光協会 ）

ア 日時：平成31年2月1日（金） 午後3時～5時

イ 会場：八芳園（東京都港区白金台1-1-1）

ウ 参加者：300人

エ 内容：

◇芸舞妓による舞の披露

◇主催者挨拶

齋藤 茂 京都ブランド推進連絡協議会 会長

門川 大作 京都市長

◇パネルディスカッション

「住まう京都 ～住む、暮らす、働く、遊ぶ。京都の魅力～」

コーディネーター

小山 薫堂氏（放送作家・脚本家、京都造形芸術大学 副学長）

パネリスト

富川 匡子氏（株式会社 ハースト婦人画報社、ラグジュアリーメディアグループ、
婦人画報&美しいキモノ編集部 編集長）

ジェフ・バーグランド氏（京都外国語大学 国際貢献学部グローバル観光学科 学科長）

田村 篤史氏（株式会社ツナグム 代表取締役、京都移住計画 代表）

(5) 京都創生 PR 事業「京あるき in 東京 2019」の実施

京都市、京都商工会議所、京都市観光協会とともに、第9回目となる「京あるき in 東京」を実施した。

総合テーマ：京まなび～知ると日本がもっと好きになる～

概要：京都ゆかりの企業・大学・団体の参画のもと、首都圏で京都の魅力を発信する催しを集中的に実施

期間：平成31年2月1日（金）～3月3日（日）

事業数：105（前回：116）

参画団体数：250（前回：246）

[京都創生推進フォーラムの活動内容]

- ・「京都ブランドフォーラム in 東京」の開催（再掲）
- ・京都創生パンフレットの配布
- ・PRポスター「日本に、京都があってよかった。」の掲出

(6) 京都創生推進フォーラムホームページによる情報発信

- ・各会員の活動情報を閲覧・掲載
- ・新規会員の登録
- ・トピックスはシンポジウム等の情報や今後の開催案内を掲載
- ・広報誌やポスター等の広報物を紹介

※ 平成30年度年間ホームページアクセス件数 65,832件

(7) 京都創生推進フォーラム会員管理

- ・会員数 880（内訳 企業・団体 416、個人464）

4 文遊回廊事業

株式会社京都新聞社と共催し、文化と観光をクロスオーバーした、京都を舞台とした文学作品ゆかりの地を巡る「文遊回廊」（紙面掲載）を実施。

平成29年10月～平成31年3月（月1回・毎月第4木曜日掲載）

Ⅱ 国際観光コンベンション事業（公益目的事業）

1 コンベンション（MICE）事業

（1）プロモーション事業

① 海外プロモーション活動

欧州で開催される2つのMICE 専門見本市であるIMEX とIBTM に、昨年度に引き続き京都の単独ブースを設け、京都の事業者と出展した。

(7) [IMEX in Frankfurt 2018 出展]

（平成30年5月15日～17日 ドイツ・フランクフルト）

※【京都ブース共同出展者(順不同)】

グランドプリンスホテル京都、京都ホテルオークラ

ホテルグランヴィア京都、JTB 西日本 MICE 事業部、国立京都国際会館

(1) [IBTM World 2018 出展]

（平成30年11月27日～29日 スペイン・バルセロナ）

※【京都ブース共同出展者(順不同)】

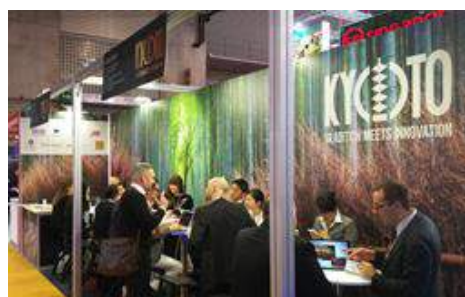
グランドプリンスホテル京都、

京都ホテルオークラ、京都東急ホテル、

ハイアットリージェンシー京都、

京阪ホテルズ&リゾート、

JTB 西日本 MICE 事業部、国立京都国際会館



② 国内プロモーション活動

[IME2019（国際MICEエキスポ）出展]

（平成31年2月28日 東京国際フォーラム）

※京都市勧業館「みやこめっせ」、「ひらまつ」の2社とチーム京都を構成し出展

（2）開催支援事業

① 政府関連特定会議等の京都開催への運営協力

[第15回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)]

公開シンポジウム 平成30年10月6日 京都商工会議所講堂

歓迎レセプション 平成30年10月8日 東福寺

京都エクスカージョン 平成30年10月8日 23名参加

※今回のエクスカージョンにおいても、前回に引き続き「京都伝統産業ふれあい館」と連携し、同伴者向けメニューとして、伝統産業体験(和ろうそくの絵付け)の機会を提供。また、平成28年8月に制度化された「京都市ビジターズホスト」を活用し、「京都品質」の通訳サービスを提供した。

② 京都スマートシティエキスポ 2018、2019 への運営協力

けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)等において、平成30年10月に開催された京都スマートシティエキスポ2018及び令和元年10月開催予定の京都スマートシティエキスポ2019の実施に関し、準備委員会や運営協議会、事業者選定会議など積極的に京都府担当課と連携するとともに、助成金支出等の開催後方支援を行った。

③ オール京都体制で誘致した会議の開催支援

本年9月の「国際博物館会議(ICOM)」、本年12月の「国連世界観光機関/ユネスコ 観光と文化をテーマにした国際会議」及び令和2年4月の「国連犯罪防止刑事司法会議」について、地元開催機運の醸成や主催者との連携を通じて支援業務を実施した。

④ MI 案件・展示会 (E) の開催支援

京都の都市格に相応しい国内外の大手企業が主催するミーティング (M)、インセンティブ (I) の京都開催を支援した。10月9日、日本ミシュランタイヤ(株)による「ミシュランガイド京都・大阪+鳥取 2019」の出版記念パーティーが、世界文化遺産の元離宮二条城にて開催された。

会場となった二条城をはじめとするユニークベニューは、文化財の活用促進にも貢献しており、海外ジュエリーブランドの展示商談会や大手化粧品会社による新ブランドの発表会など海外富裕層へ向けた京都の情報発信においても大きな役割を担っている。

また、本年3月には京都初となるインターナショナルギフト・ショーが開催され、伝統産業をはじめとする京都のものづくり産業を国内外のバイヤーへ紹介する機会が生み出された。

さらに、同3月には、東本願寺の渉成園にて開催された京都の老舗料理店の料理人による特別懐石料理と文化を楽しむイベントにおいても会場の提案から実施まで支援を行った。



⑤ オフサイト・レセプション等の企画・提案

開催地ならではのユニークな施設・会場(オフサイト・レセプション)の企画・提案を積極的に行った。また、(公社)京都市観光協会と連携し、共同でユニーク・ベニュー開発に取り組むことによって新たな施設との連携が強化された。

⑥ 観光庁ローカルホストサポーターニングスキル強化事業の実施

平成25年度から平成28年度の「グローバル MICE 都市支援事業」、平成29年度の「MICE 誘致・開催プロジェクトマネジメント力強化支援事業」に続き、さらに当財団の機能高度化を図るため、ローカルホスト等に対する的確なサポーターニング力の強化支援が可能となるよう国際学会や PCO からコンサルティングを受けた。

(3) 各種会議支援サービス制度の運用状況等

① 助成金

(ア) 京都市大規模国際コンベンション開催支援助成金の活用

[申請案件（平成30年度申請(認定)分)]

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
第25回アジア太平洋呼吸器学会学術講演会	2,500人	令和2年度	300
第9回世界緑内障学会	2,500人	令和2年度	300
第25回プラズマ化学国際シンポジウム	700人	令和3年度	300
知能ロボットとシステムに関する国際会議	2,500人	令和4年度	400
国際触媒会議	2,500人	令和6年度	300
第32回国際園芸学会議	2,500人	令和8年度	400
第24回国際老年学会議	5,000人	令和11年度	400

[平成30年度交付案件]

会議名	参加者	開催年度	交付額 (万円)
第16回アジア泌尿器科学会	1,500人	平成30年度	200
第27回国際液晶学会	800人	平成30年度	200
国際小児がん学会	2,500人	平成30年度	400
第10回国際ペプチドシンポジウム	900人	平成30年度	300
第5回国際組織工学・再生医療学会世界会議	2,500人	平成30年度	300
社会経済学発展学会	1,000人	平成30年度	250

(イ) 京都市大規模国際コンベンション誘致支援助成金の活用

[申請案件（平成30年度申請・交付分)]

会議名	参加者	開催予定年度	交付額 (万円)
知能ロボットとシステムに関する国際会議	2,500人	令和4年度	44

(ロ) 京都市中・小規模 MICE 開催支援助成金の活用

利用件数：33件 支援金額：4,375,000円

(I) 京都市「京都らしい MICE 開催支援補助制度」の活用

利用件数：56件（うち伝統産業製品22件(文化プログラムとの併用5件を含む)）
支援金額：12,085,375円（うち伝統産業製品支援：4,182,038円）

(II) 京都府「京都府 MICE 開催支援助成制度」の活用

利用件数：14件
（うちコンベンション支援7件、分科会支援2件、エクスカージョン支援5件）
支援金額：2,212,050円

② その他の支援サービス

(ア) 京都コンベンション・パス(地下鉄・市バス特別乗車券)の発行

利用件数：2 件 発行金額：2,646,300 円

(イ) 京都イメージバンクの活用

利用件数：65 件

(ロ) 公開シンポジウム等広報支援制度

利用件数：2 件

(ハ) 京都開催 PR 用バナー貸出制度

利用件数：5 件

(ニ) プロモーション DVD の貸出・提供

利用件数：1 件

(ホ) 京都市 MICE デスティネーション PR 映像の貸出・提供

利用件数：24 件

(ヘ) 各種広報印刷物等の提供

利用件数：126 件 京都観光案内地図(日英併記) ほか

(4) 広報宣伝事業

① メールマガジン(京都観光 MICE ニュースレター)の発行

当財団賛助会員や京都市観光協会会員に加え、商談会、視察、問合せ等で接触する国内外のミーティングプランナー、MICE 主催者に対し、定期的に京都の観光 MICE 関連情報を発信することにより、京都での MICE 開催を意識させ、京都への MICE 誘致促進につなげるためメールマガジンの配信を実施した。

② ホームページによる京都における MICE 関連情報の発信

国内外の MICE 主催者・参加者に対し、MICE 開催都市「京都」の情報発信を行うため、世界中の国際会議や国際学会の主催者や事業者、加えて京都市内の大学関係者の皆様の利便性向上を図った。

(5) MICE 関連情報の調査・収集・検討

① 情報の収集

観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB)、ICCA (International Congress and Convention Association 国際会議協会)をはじめ関係団体との積極的な交流を図り、MICE 関連情報の収集に努めた。また各種の海外見本市への参加等を通じて国際的な MICE プレーヤーとのネットワーク強化と情報収集を図った。

② 環境に配慮した MICE 都市の世界的取組への参画

環境にやさしい国際会議の開催を目指して、コンベンションや見本市に関する国際的機関が立ち上げた組織である GDS Index(Global Destination Sustainability Index)に、平成 28 年 7 月にアジアで初めて参画し、「環境に配慮した持続可能な MICE 都市」としての位置付けの強化に努めている。そうした取組から、同組織加盟都市から開催地を選ぶ MICE の誘致も成功している。

③ 京都大学との協力による国際会議推進

「京都市と京都大学との国際学術都市としての魅力向上に関する連携協定書」（平成 27 年 8 月締結）に基づき、京都大学と国際会議の推進に関する協議等を継続して実施している。また、各学部の教授会や、研究支援組織の会合等、様々な機会を捉えて、支援施策の PR を行うとともに情報収集に努めている。

④ 京都府警との連携

府警本部警備部と当財団の間で平成 27 年 3 月に締結した「京都をテロから守る連携協定」に基づき、安心して参加できる国際会議都市・京都のステイタスを維持するため情報交換・情報発信を継続して実施している。

⑤ 統計調査・発行

国際会議統計「2017 京都で開催された国際会議」発行

（6）MICE 向け京都伝統産業製品貸出制度創設

京真田紐を用いたネックストラップや会場装飾用の京扇子などの伝統産業製品を MICE 開催時に貸し出す「MICE 向け京都伝統産業製品貸出制度」を開始。京都の伝統産業製品に触れる機会を創出し、購入促進に繋げるほか、満足度向上、リユースによる廃棄物の減少などが期待でき、SDGs の推進にも貢献できる制度であり、今後積極的に活用を促していく。

（7）京都エクスカージョンガイド発行

主催者からニーズが特に高いチームビルディング、社会貢献、文化体験、交流メニューを取り入れた「京都エクスカージョンガイド」を発行した。主催者・参加者等の満足度向上を図るとともに、料金の一部を文化財の保全や環境保護に充てるなど、SDGs の実現や地域生活と観光との調和にもつながる取組を推進していく。

2 国際観光事業（京都市観光協会との協働事業）

（1）海外情報拠点管理運営事業（京都市委託事業）

世界 11 都市（ニューヨーク、ロンドン、パリ、フランクフルト、シドニー、上海、台北、ソウル、香港、クアラルンプール、ドバイ）において、情報拠点（レップ窓口）を設置し、現地の旅行動向等の情報を収集するとともに、マーケティングに基づいた京都観光の PR 活動等を実施。また、拠点担当者が一堂に会する海外情報拠点市場説明会を平成 30 年 7 月に開催し、会員企業等に対し、現地の最新情報を提供した。



(2) 海外富裕層市場への取組事業

「日本ラグジュアリートラベルアライアンス」(構成：札幌市、石川県、京都府、京都市、奈良市、和歌山県) 事業として、各自治体と連携したプロモーションを展開。また、ATM (ドバイ)、ILTM Asia pacific (シンガポール)、ILTM Cannes 等の富裕層旅行商談会へ出展等を通じ、欧米のラグジュアリー市場における日本・京都の認知拡大、観光事業者の市場参入プラットフォームの整備を促進することで、京都来訪の動機付けを向上させ、観光消費の一層の拡大を図った。

(3) 京都市域内統計収集・分析強化

京都市域の 54 ホテルの協力を得て、国籍別の宿泊状況調査を毎月実施。世界最大のホテルデータサービス提供会社、STR との連携のもと、市内ホテルの客室平均単価 (ADR) 等の情報を国内外主要都市と比較するなどの情報分析を行った。また、免税店を対象に、年間、国慶節 (10 月) 及び春節 (2 月) を対象とする売上状況調査を実施した。

(4) ウェブサイトの運用事業 (京都市補助事業)

外国人観光客向けに 13 言語で情報発信しているウェブサイト「Kyoto City Official Travel Guide」について、魅力的な情報の充実のために、情報を整理し、サイト構造やデザインの見直しを行うとともに、記事コンテンツの追加、交通情報の充実、台風 21 号に伴う風評被害対策としての動画発信、障害に応じて画面を自動的に最適化する「FACIL' iti (ファシリティ)」システムの試験導入など多くの施策を実施した。

また、ぐるなびや体験コンテンツ販売事業社「voyagin」と連携しながら、外国人観光客にとって必要な情報にたどり着ける導線を整備した。

(5) ソーシャルネットワークの運用事業 (京都市補助事業)

英語 Facebook「Visit Kyoto」ページを活用し、引き続きタイムリーな情報発信を行うとともに、中国の SNS、Weibo (ウェイボー) の京都観光公式アカウントにおいて、最新の京都観光情報やマナー啓発等の発信を行った。

(6) 海外メディア取材誘致・露出強化事業 (京都市委託事業)

海外有カメディア (雑誌、テレビ、ウェブサイト等) の取材誘致受入を推進し、メディアへの効果的な露出を通じ、京都ブランドの一層の向上を図った。実施にあたっては、日本政府観光局 (JNTO) や近畿運輸局、他都市、航空会社等と積極的な連携を図り、マーケット及び費用対効果を意識した PR 活動を展開した。特に、観光客の集中緩和につなげるべく、夏冬等の閑散期の魅力拡大を推進するとともに、まだ認知されていない観光魅力を発信した (支援件数：53 件 65 媒体。広告換算額：約 10.5 億円)

(7) 海外における旅行博・商談会・セールスコール事業

国内外で開催される旅行商談会に出展を行い、デスティネーションとしての京都のPRを行うとともに、多くの顧客を有する海外の有力旅行会社関係者等を京都に招聘し、国内企業等とのマッチング機会の創出など、海外から京都への旅行商品造成の一層の拡充を図った。

平成30年9月 VISIT JAPAN トラベルマート（東京）

平成31年3月 ITB（ドイツ、ベルリン）

(8) 外国人観光客向け多言語コールセンター運営事業

外国人観光客の満足度向上とセーフティネットの構築等を目的に、24時間年中無休の多言語コールセンターを運営し、宿泊施設を対象に5言語による電話通訳サービスを提供した（京都府、京都市、滋賀県、大津市、奈良市との共同事業）。また、VoiceTra4U等のICTによる通訳機能の積極的活用を図った。

(9) 免税対応支援事業（京都市補助事業）

多言語コールセンターによる電話通訳サービスの提供やセミナーの開催、メルマガの配信など、多岐にわたる免税店支援事業を継続展開するとともに、ウェブサイトにおける免税店情報の発信を強化した。

<京都市内の免税店数>

平成26年4月現在 178件（支援開始時点）

平成30年10月現在 1,545件（約8倍増）

(10) 京都市認定通訳ガイド育成事業（京都市委託事業）

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市独自の通訳ガイド「京都市ビジターズホスト」第3期生の育成事業を実施した（認定ガイド数 第1期生～第3期生 計156名）。

(11) ガイドツアー造成事業（京都市補助事業）

京都市ビジターズホストを活用し、京都迎賓館や二条城、京都御所周辺や東山界限において、文化財や伝統産業、商店街と観光を結びつけるガイドツアーを運用した。また、ヨガやマンガをテーマとする新たなコンテンツの開発・造成も試行的に実施した。



(12) 外国語研修実施事業（京都市補助事業）

飲食店や宿泊施設、小売店、伝統産業店舗等の従事者を対象に、初心者向け外国語研修を実施した（参加型研修 24 回／216 名、出張型研修 35 回／623 名）

(13) 買物環境整備支援事業（京都市補助事業）

免税相談窓口や多言語コールセンターの運用など、免税店支援を行うとともに、大手クレジットカード会社「ビザ・ワールドワイド・ジャパン」と連携し、アクセプトマークの掲出強化を図るとともに、嵯峨嵐山地域の商店街等において、外国人観光客を対象とするショッピングキャンペーンを実施した。

(14) 外国人観光客受入環境整備助成金交付事業（京都市補助事業）

インバウンドの受入に前向きな事業者に対する助成制度を創設し、市内事業者がクレジットカード決済や免税販売、多言語メニュー整備などを行う際の経費に対し、助成金を交付した。

助成対象者	観光施設、宿泊施設、飲食店、小売店、 医療機関、理容院・美容院、銭湯、商店街、 交通機関、寺院・神社、その他
助成対象事業	キャッシュレス対応、免税対応、Wi-Fi 整備、 洋式トイレ整備、多言語整備、外国語研修開 催、ダイバーシティ対応、マナー啓発、マー ケティング推進、その他
助成金額	事業経費の2分の1以内で1事業20万円 ※複数事業を行う場合は40万円まで可
助成対象件数	47社64件



(15) 旅館活性化支援事業（京都市委託・補助事業）

和の文化を体感することができる我が国固有の宿泊施設である「旅館」について、更なる集客、活性化を図るべく、PR動画の海外発信強化や経営向上セミナーの開催、若手従業員向けの研修会を実施した。

旅館経営向上セミナー 平成31年1月、3月

文化体験研修 平成31年1月～2月 歴史・華道・茶道 計6回

3 広域プロモーション事業

(1) 宇治茶プレミアムブランド化事業（お茶の京都 DMO 委託事業）

京都府と山城地域全市町村等により設立された『お茶の京都 DMO』の事業として、宇治茶産業の振興を目的とした、宇治茶のプレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んだ。

① 海外プロモーションの実施

平成30年11月、フランス・パリにおいて、宇治茶の愛好・応援のネットワーク組織『Association du thé UJI』（宇治茶愛好会：平成28年設立）メンバーを中心に以下のプロモーションを展開し、情報発信力の高い各界を代表する方々や三ツ星レストランのシェフ等に宇治茶の価値を理解していただくとともに、パリでの日常生活における宇治茶の楽しみ方を共有していただき、宇治茶の魅力を発信した。

- ・宇治茶プレミアムウィーク企画展

ギャラリー・ヴィヴィエヌにおいて、「宇治茶プレミアムウィーク」と銘打ち、茶師による抹茶・玉露の淹れ方デモンストレーションや試飲、茶臼挽き体験、歴史的な生産道具類の展示、大正時代の茶摘み風景や生産工程の動画放映等を実施し、多くの方々に宇治茶の認知拡大に努めた。



宇治茶の歴史展示 @ギャラリー・ヴィヴィエヌ



宇治玉露体験 @ギャラリー・ヴィヴィエヌ

- ・プレミアム茶会「シャングリ・ラ ホテル」及び宇治茶サロン「とらや」

茶師から玉露の淹れ方の解説、レクチャーを行い、参加者自らが淹れ方を体験し豊かな味わいを経験していただくことにより、宇治茶への関心及び理解の深化を図った。



プレミアム茶会での宇治抹茶振る舞い@シャングリ・ラ ホテル



宇治茶サロンでの宇治玉露体験 @とらや

- ・二つ星レストランシェフ等とのワークショップ

シャングリ・ラ・ホテルにおいて、二つ星レストランシェフ等と茶師によるワークショップを開催した。少人数グループに分かれ、玉露と抹茶の淹れ方体験を通じて、宇治茶への理解を一層深め、ドリンクメニュー化や料理メニューへの活用等について意見交換を行い、宇治茶のブランド確立に向けた一歩となる具体的な動きとなった。



宇治茶ワークショップでの玉露体験 @シャングリ・ラ ホテル

② 国内プロモーションの実施

・宇治茶の郷への招へい（平成30年8月）

『Association du thé UJI』メンバーである三ツ星レストランシェフらを宇治茶の産地にお招きし、茶畑景観、生産現場の視察や茶業関係者との意見交換を行うことにより、宇治茶の価値への理解をさらに深め、宇治茶のプレミアムブランド化及び世界遺産の登録など、世界に向けた発信を期待した。



「Pascal Barbot」シェフ・茶師「下岡久五郎」氏
@久五郎茶園



「Pascal Barbot」シェフ・茶師「堀井長太郎」氏
@堀井七茗園

・ミシュランガイド出版記念パーティー等でのプロモーションの実施

在日フランス商工会議所 ガラ・パーティー関西2018（5月）やミシュランガイド京都・大阪+鳥取2019出版記念パーティー（10月）において、宇治玉露を振る舞い、宇治茶に対する認知度を高めた。



在日フランス商工会議所 ガラ・パーティー関西



ミシュランガイド京都・大阪+鳥取 2019 出版記念パーティ

Ⅲ その他の事業（公益目的事業）

1 ホームページの運用

ホームページに「What's NEW」のコーナーを設け、当ビューローからの最新情報や関連行事等のタイムリーな情報の提供に努めた。

また、「文化発信事業」サイトをより見やすくするためのリニューアルを行った。

2 会報誌「京都文化交流コンベンションビューロー通信」発行

ア 仕様：A4版、4頁（オールカラー）

イ 作成部数：1,000部

ウ 発行回数：年4回（4月、7月、10月、1月）

エ 配付先：賛助会員・関係団体 ほか

3 関係団体との連携等

（1）「京都花灯路」・「京の七夕」への参画

関係団体と連携し、「京都花灯路」や「京の七夕」へ主催者団体や実行委員会の一員として参画し、地元京都の観光振興に取り組んだ。

①嵐山花灯路

平成30年12月8日（土）～17日（月）

来場者数：103万1千人（今回14回目の開催）

②東山花灯路

平成31年3月8日（金）～17日（日）

来場者数：90万人（今回17回目の開催）

③京の七夕

平成30年8月4日（土）～16日（木）

来場者数：73万人（今回9回目の開催）

（2）時代祭におけるメッセージ発信

「平安建都1300年に向けて」というメッセージを書いた横断幕を持つ行列の先頭役を担った。行進者は賛助会員から募集し、その協力を得た。

IV 共益・収益事業

1 賛助会員制度の運営

(1) 新規勧誘の促進

平成24年度から5年連続で大幅に賛助会員を増加させ、23年度末の356件から、28年度末には629件（1.8倍）まで拡大させてきた。

しかし、28年度からのインバウンド部門の市観光協会への移管により、29・30年度については、MICEを中心に更に加加入促進に努めたが、入会より退会が上回り、微減した。

ア. 新規加入会員（19社 19口）

会 員 名
株式会社デイクアンドギヴ・ニース
スタイル・デベロップ株式会社
株式会社ビックスマイル
株式会社正庵
ホテルビスタプレミアオ京都 和邸
株式会社 The Sailing 京都幽玄
一般社団法人関西ムスリムインバウンド推進協議会
株式会社ティーケーピー
株式会社フラットエージェンシー
株式会社E・A
株式会社モーリヤ
京都コネクト株式会社
住友不動産株式会社
旧邸御室
京都かまんざホテル
株式会社サッポロドラックストア
上島珈琲貿易株式会社
ジェラート・ベネ株式会社
株式会社ビジネスガイド社

イ. 退会会員（30社 31口）

会 員 名
株式会社オクトパス
一般社団法人EO Osaka
コイニー株式会社
株式会社アクシュ
株式会社ドンキホーテ
株式会社京大和

Plus Alpha JAPAN
阪神トラック株式会社
有限会社吉川住宅
ホテル・京都・ベース
MIHO MUSEUM
辰馬本家酒造株式会社 おず
サムライ剣舞株式会社
株式会社京都センター
株式会社京都トラベラーズイン
関西セミナーハウス
学校法人京都産業大学
デリバリーサービス
京都センチュリーホテル
株式会社サピエント
ヒトコミュニケーション
ビザワールドジャパン(株)
株式会社レオタニモト
Tea Ceremony Koto
俵屋吉富
株式会社プレメーズ
株式会社おもてなし京都
有限会社いはら田
有限会社愛染倉観光
株式会社ウィルプランニング

<賛助会員数の推移>

年度別	会員数	口数
平成20年度末	264	384
平成21年度末	257	374
平成22年度末	255	367
平成23年度末	244	356
平成24年度末	289	507
平成25年度末	297	517
平成26年度末	337	562
平成27年度末	370	601
平成28年度末	398	629
平成29年度末	396	608
平成30年度末	385	591

(2) 「会員の集い」の開催（開催日：平成31年2月19日）

賛助会員間の情報交換・相互のネットワーク強化を目的として開催。

本年は、京都市観光協会及び京都府観光連盟にもご協力いただき、両団体会員の皆さまも参加されたことから、過去最高の参加者数となり、相互交流をより一層深めることができた。

※ 参加者数 851名

2 京都迎賓館記念品の販売

京都迎賓館の通年公開に併せ、京都迎賓館での記念品の販売を実施するとともに、京都観光案内ブースを運営。

V 管 理 運 営

1 理事会の開催

(1) 第15回理事会

- ア 日 時 平成30年6月8日（金）午前10時～11時
- イ 会 場 御所西京都平安ホテル 平安の間
- ウ 出席者 理事11名、監事2名
- エ 議 事 第1号議案 平成29年度事業報告に関する件
第2号議案 平成29年度決算に関する件
第3号議案 平成30年度収支予算の補正に関する件
第4号議案 評議員会の開催に関する件

(2) 第16回理事会

- ア 日 時 平成31年3月4日（月）午後1時30分～2時30分
- イ 会 場 からすま京都ホテル 瑞雲の間
- ウ 出席者 理事12名 監事1名
- エ 議 事 第1号議案 平成31年度事業計画に関する件
第2号議案 平成31年度収支予算に関する件
第3号議案 平成30年度収支予算の補正に関する件
第4号議案 「就業規程」及び「給与規定」の一部改正に関する件
第5号議案 評議員会の開催に関する件



第16回理事会

2 評議員会の開催

(1) 第15回評議員会

- ア 日 時 平成30年6月29日（金）午前11時～12時
イ 会 場 御所西京都平安ホテル 朱雀の間
ウ 出席者 評議員7名 専務理事1名 監事1名
エ 議 事 第1号議案 平成29年度事業報告に関する件
第2号議案 平成29年度決算に関する件
第3号議案 平成30年度収支予算の補正に関する件

(2) 第16回評議員会

- ア 日 時 平成31年3月26日（火）午前10時～11時
イ 会 場 からすま京都ホテル 双舞の間
ウ 出席者 評議員8名 専務理事1名 監事1名
エ 議 事 第1号議案 平成31年度事業計画に関する件
第2号議案 平成31年度収支予算に関する件
第3号議案 平成30年度収支予算の補正に関する件



第16回評議員会

3 事務所の移転

【新所在地】京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地 京都経済センター3階
【移 転 日】平成31年1月28日



平成30年度事業報告には、定款第8条第1項2号に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため作成しない。

令和元年6月 公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー